謎の流人・近江屋伊三郎

側面に近江屋伊三郎の名が刻まれている蓮華台

江戸時代の天草島は流人の島であったが、

① 何故、九州本島に近い天草が流人島に選定されたのか。

② では、何人が天草島に送られたのか。

③ 流人たちが、天草島民にとってどんな存在であったのか。

④ 流人を預けられた村や村人に、流人がどんな影響を与えたのか。

⑤ 村（村人）と流人の間にトラブルはなかったのか。あったとしたらどんなトラブルがあったのか。

など流人に関しては、不明な点が多いため多くの疑問が浮かぶ。

これら疑問に先人の歴史研究者が地道に史料を発掘し纏められているが、その史料そのものが少ないため不満足な状態である。

その流人の中で、ほぼ確かな史料があるのは一町田村流人・定舜上人くらいである。

準としては、高野山僧流人衆や墓が残っている数人に過ぎない。

といってもその詳細は解らない。

それはもっともなことで、迷惑至極な流人を強制的に受け入れざる得なかった村にとっては、記録に残すことなど論外であったろう。最も当時の村の記録を残すこともあまりなかったといえるが。

さて、前置きが長くなったが、近江屋伊三郎について記してみる。

近江屋伊三郎が確実な史料として残っているのは、大浦村九品寺西側の共同墓地にある蓮華台である。蓮華台とは、土葬の前に最後の別れをするために柩を置く台座の事である。この蓮華台に「山城国紀伊郡京都産　流人、近江屋伊三郎」と刻まれているのである。

また、もう一つの史料として、九品寺の過去帳に「近江屋伊三郎　嘉永二年四月　日歿・教観道入仙清信士」に遺されている。鶴田文史氏調査　「西海義民流人衆史」

更には、嘉永二年（一八四九）の「御用触写帳」（小崎家文書）に、

「小島子村流人伊三郎儀、大多尾村より楠浦村への渡船場におゐて、一昨十六日溺死いたし、死骸相分からざる旨届け出候条、若し其の村方へ流れ寄り候か、又は見当たり候はば、早々、訴へ出で差図請くべく、此の廻状、刻付けをもって、早々、順達、留まり村より相返すべきものなり

閏四月十八日　　富岡

御役所　」

また、松田唯雄著の「天草近代年譜」には。

「嘉永二年（１８４９）閏四月十六日　大多尾村より小島子村へ預け替え流人、大多尾港より楠浦村大門掛かりへ渡船の途上溺死し、死体上がらず、沿岸村々をして夫々捜索せしむ」

別の見方をすれば、資史料が他の流人に対して、多く残っているといえなくもない。

話しを要約すれば。

① 大多尾村預かりの流人伊三郎が、小島子村へ預け替えに際し、大多尾村から楠浦村への渡船場に於いて溺死したという事。

② 溺死したのは事故なのか自殺なのか。

③ 大多尾村は下島の東海岸の村で、大浦村は上島の北部に位置し、両村はかなり離れているし、間には瀬戸海峡があり、大多尾村から楠浦村への途中で溺死したなら、死体が大浦村に流れ着くとは考えられない。

④ また、御用触れには、大浦村で死体が発見されたという文書もない。

⑤ 大浦村（九品寺）との関連性が不明。

さて、この近江屋伊三郎について、北野典夫氏は「有明町史」で次のように述べている。

（要約）

① 遠島の境涯に落ちて、仏心をおこした流人もいる。大浦の浄土宗九品寺檀家の共同墓地近い回り場に、大きな石の蓮台があり、その側壁に、長い歳月で薄れかかってはいるがその側壁に「山城国紀伊郡京都産、流人近江屋伊三郎」と刻んだ文字がはっきり読めるのである。

人名	伊三郎
身分など	近江屋
生国	京都
配流村	大浦村
死亡年月日 法戒名	嘉永二年四月　日歿 教観道入仙清信士
出典	大蓮台式墓碑 九品寺供養帳

上の表は、

『西海義民流人衆史』鶴田文史編　より

②　近江屋伊三郎が何者か、いつの年の何月何日に何の罪で遠島の刑に処されたのか、まだ管見に入っていない。

③　流人が蓮台を寄進し、みずからの名をその大石の片隅に刻んだということ、なんとも哀れを誘う物語である。

④　富岡役所が村々へ出した廻し帳には、宛先を、死骸の流れつく可能性のある下浦、（栖本）馬場、湯船原、古江、宮田、棚底、浦、御所浦、大道、須子、赤崎、上津浦、下津浦、小島子、大島子、志柿などの村々役人となっている。そのころまで小宮地村の第二次築き立て新田（外新田）は未完成であったから、そこを遠く迂回する不便さを解消するため、楠浦村の観音から大多尾村の樫浦まで渡船があったのか。それにしても、小島子村流人が、何用あって大多尾村まで出かけたのか。

⑤　大浦の蓮台は、遥かな遠島地で非業の死をとげた伊三郎を供養すべく、京都なるその遺族が寄進したものかもしれない。

私見だが、伊三郎は、生前、九品寺の住職と何らかの接点があり、伊三郎が生前に蓮華台を寄進したとも考えられる。

ただし小島子村預かりの流人が、大浦村の九品寺と接点があるというようなことがあるのだろうか。

等々不明な点と疑問点があるが、確実なことは大浦村九品寺の共同墓地に、近江屋伊三郎と記した蓮華台が残されているという事である。

蓮華台の刻字　「山城国紀伊郡京都産　流人、近江屋伊三郎」

また、蓮華台の説明板が、隣にある島原大変肥迷惑の犠牲者の慰霊塔とともに、大浦振興会により設置されている。その文章は次の通り。

この柩安置用安置用の蓮華台の外側に「山城国紀伊郡京都産、流人、近江屋伊三郎」と刻まれている。伊三郎がどんな人物で、どんな罪を犯したのか不明であるが、流刑囚の仏心が罪滅ぼしの為に建立したと思われる。

昔、土葬時代ではここで葬送の儀が行われ最後の別れをしていた場所でこの蓮華台は江戸時代の建立ではと推測される。

※注　江戸時代の天草は流人の島で遠島の刑に処された人達が村々に預けられていた。

平成十七年三月一日　大浦振興会

注　案内板には、柩の漢字が柩の字を用いているが、間違いと思える。
また郡を群と記してある。

由　来

①　流人、近江屋伊三郎の蓮華台

この柩安置用の蓮華台の外側に「山城国紀伊群京都産、流人、近江屋伊三郎」と刻まれている。伊三郎がどんな人物で、どんな罪を犯したのか不明であるが、流刑囚の仏心が罪滅ぼしの為に建立したと思われる。昔、土葬時代ではここで葬送の儀が行われ最後の別れをしていた場所でこの蓮華台は江戸時代の建立ではと推測される。

※注　江戸時代の天草は流人の島で遠島の刑に処された人達が村々に預けられていた。